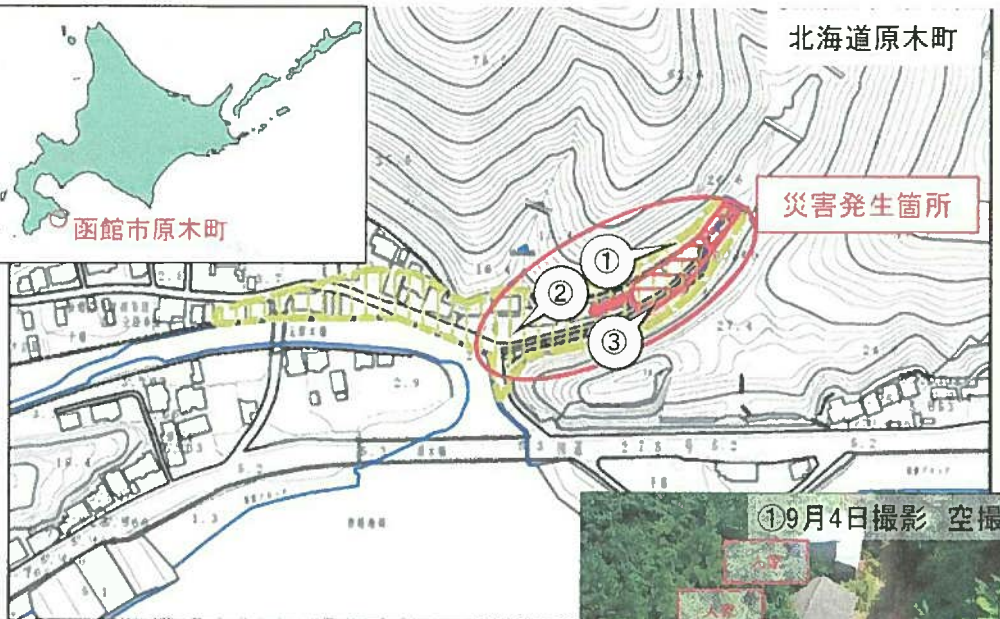


令和7年9月
事例

土砂災害の発生のおそれに関する情報等を活用して早めの避難により被害を逃れた事例 (北海道函館市原木町 地内)

様式3
(例)

- 令和7年9月1日からの大雨において、北海道函館市原木町では複数の住宅が巻き込まれる土石流が発生。
- 避難指示の発令を受け、区域内(11戸)の住民は避難をしていたため、人的被害は発生しなかった。



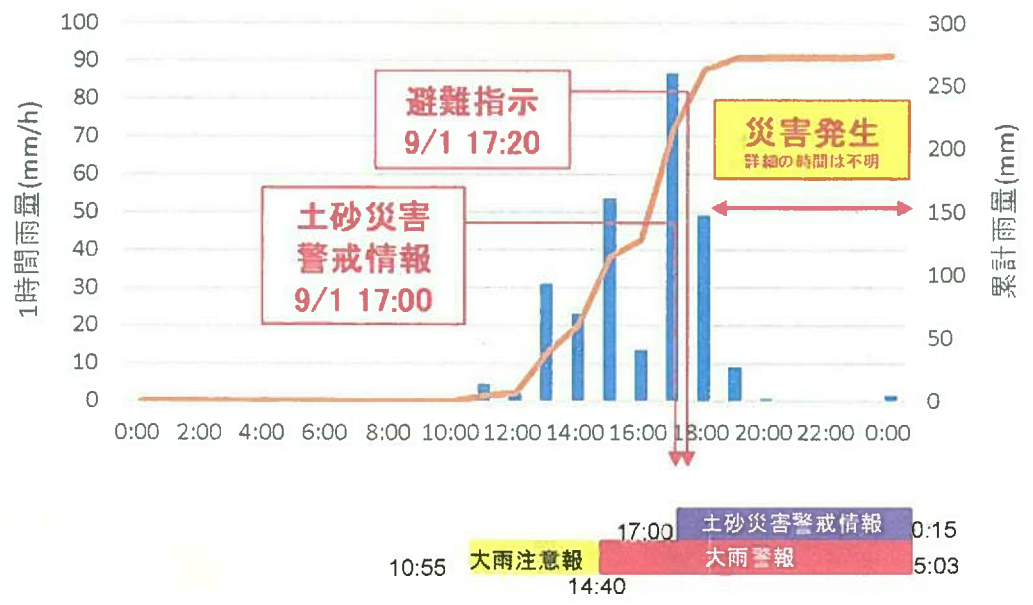
【災害の経緯】

- 令和7年9月1日(月)
- PM 2:40 大雨警報(土砂災害)発表(警戒レベル3相当)
- PM 5:00 土砂災害警戒情報発表(警戒レベル4相当)
- PM 5:20 避難指示発令(警戒レベル4)
- ※ 土石流発生について、詳細の時間は不明

土砂災害警戒区域等に指定されており、住民の防災意識が高まっていた。今回の大雨でも、区域内の住民は避難をしていたため、人的被害は発生しなかった



【降雨量の時間変化と情報等の発表状況(北海道函館市戸井泊)】



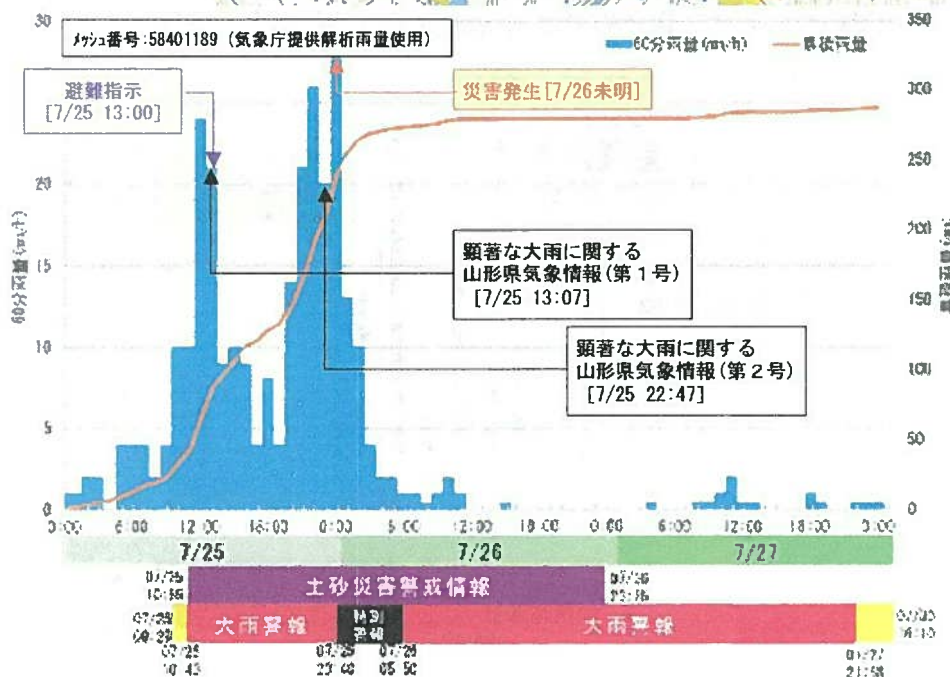
やまがたけん もがみぐん さけかわむら おおあざきょうづか
(山形県最上郡鮭川村大字京塚 地内)

- ・ 令和6年7月25日からの大雨において、山形県最上郡鮭川村大字京塚では、住宅が巻き込まれる土砂災害が発生。
- ・ 避難指示を受け、地区長や自主防災組織の声掛けにより、雨が強くなる前の25日13時30分頃から避難を開始した。
- ・ 京塚地区では全壊・半壊等の建物被害が19件確認されたものの、人的被害は発生しなかった。
- ・ 日頃の自治体等の活動が地区の防災意識向上を高め、事前の避難、人的被害回避につながったと推測される。



【災害の経緯】

- 令和6年7月25日(木)
 - 10:43 大雨警報(土砂災害)発表(警戒レベル3相当)
 - 10:55 土砂災害警戒情報発表(警戒レベル4相当)
 - 13:00 避難指示発令(警戒レベル4)
 - 23:40 大雨特別警報(土砂災害、浸水害)発表(警戒レベル5相当)
- 令和6年7月26日(金)
 - 未明 土砂災害発生(推定)
 - 05:50 大雨特別警報(土砂災害、浸水害)解除
 - 23:25 土砂災害警戒情報解除
- 令和6年7月27日(土)
 - 21:58 大雨警報(土砂災害)解除



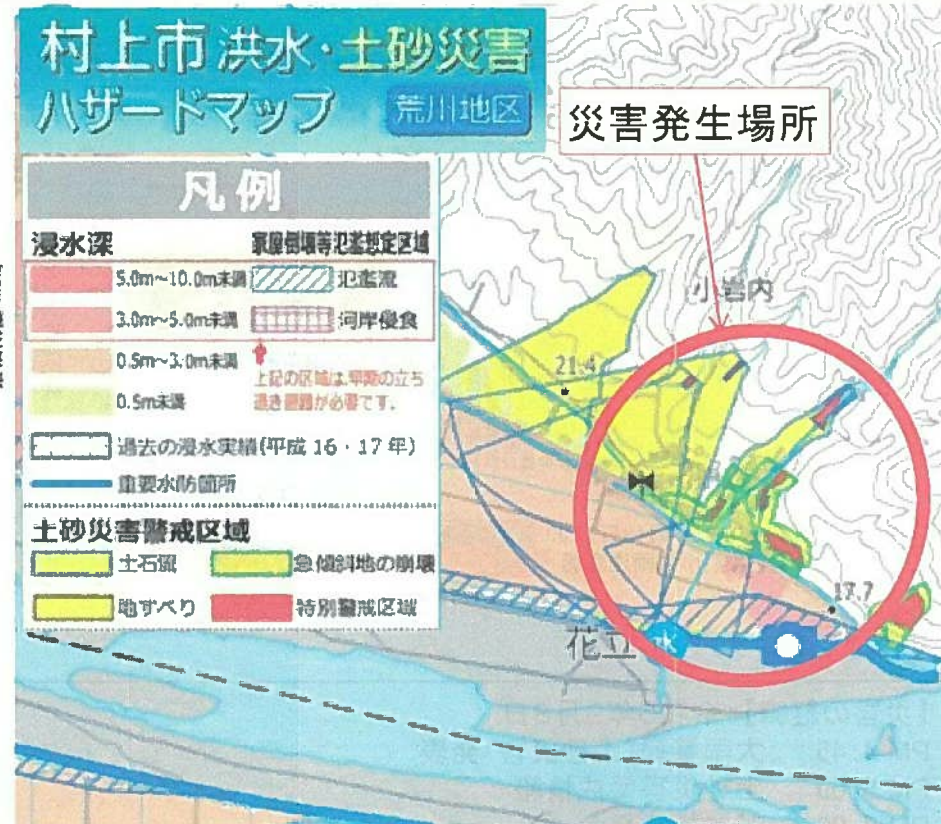
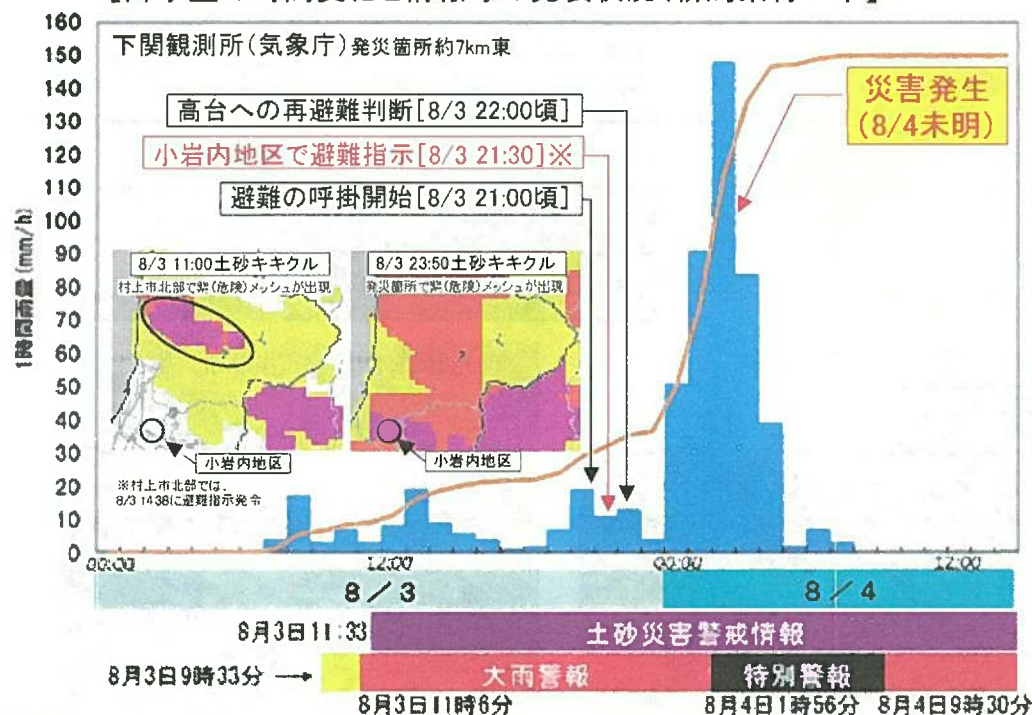
日頃の自治体等の活動が地区の防災意識向上を高め、事前の避難、人的被害を回避

近年、県内においても大規模な土砂災害が発生しており、土砂災害警戒区域等に指定されている住民の防災意識が高まっている。

鮭川村では、防災ハザードマップ刊行時に自主防災会の代表を対象とした防災研修会を実施しており、このことが地区の防災意識向上に寄与し、今回の避難に繋がったものと推測される。

- 令和4年8月3日からの大雨において、新潟県村上市小岩内地区では、複数の住宅が巻き込まれる土石流災害が発生。
- 地区役員が3日21時頃、住宅を1軒ずつ回り、避難を呼び掛けた。一度は地区の公会堂に避難したが、昭和42年羽越水害を教訓とし、高台に位置する住宅等へ「再避難」を実施し、犠牲者はいなかった。

【降水量の時間変化と情報等の発表状況(新潟県村上市)】



【区長コメント】

- いち早く高台に再避難できたのは、55年前の大水害(羽越水害)の経験が大きい。(公会堂は羽越水害でも被害に遭った場所だった)
- 空振りでもいいと開き直り、住民たちに再避難を呼び掛けた。

令和5年9月
事例

屋内避難により緊急的な安全確保を実施した事例（福島県いわき市内郷高野町地区）

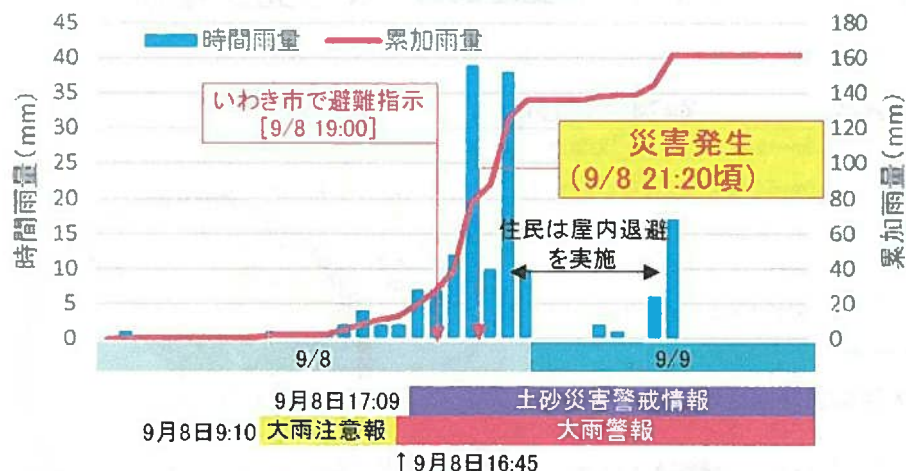
うちごうやまち

様式3
(例)

- 台風13号に伴う豪雨により、いわき市内郷高野町では、住宅裏の斜面でがけ崩れが発生。
- 非住家建物に土砂が流れ込み車を含む1階倉庫が被災したが、住民は隣の母屋で生活しており人的被害は無かった。
- 住民は2階のがけの反対側の部屋で就寝しており、その日はいつでも避難できる準備をした上で就寝した。

【降水量の時間変化と情報等の発表状況（福島県いわき市）】

好間雨量観測所（県）のデータ(9/8～9/9)



位置図



①9月9日 被災箇所全景



②9月9日 非住家被災状況



【災害の経緯】 令和5年9月8日

- PM 4:45 大雨警報(土砂災害)発表
- PM 5:09 土砂災害警戒情報
- PM 7:00 避難指示発令
- PM 7:41 いわき市南部付近で記録的短時間大雨情報発令
- がけの反対側の部屋で就寝
- PM 9:20頃 住宅裏の斜面が崩壊し、非住家建物が被災

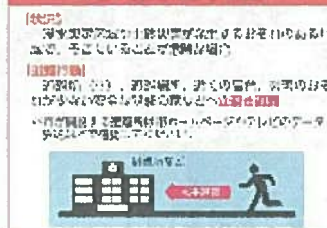
いわき市では、防災マップなどを通して、夜間等の屋外への避難が危険な場合に実施する屋内退避(建物の2階以上へ、がけなどから遠い部屋へ)について周知しており、これらの活動が住民の命を守る行動につながった。



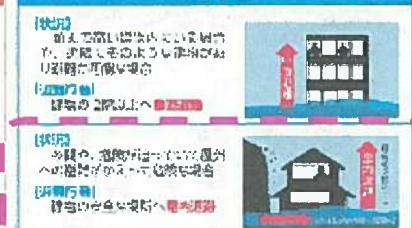
避難の考え方

避難とは避難所への避難だけでなく、次に示す行動すべてを指します。早めの避難を心がけ、また、避難の適切な行動についても学ぶことが大切です。

立退き避難（水平避難）

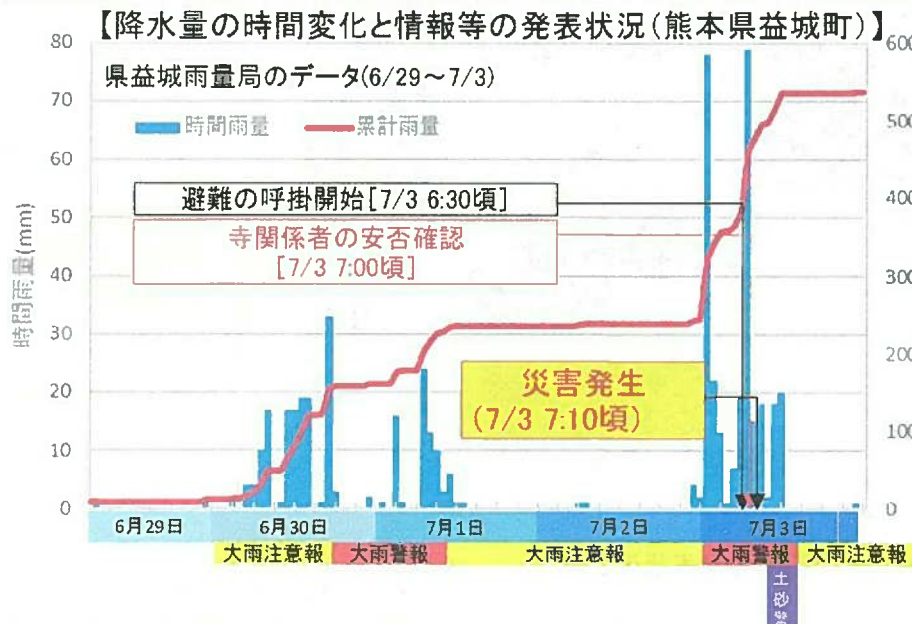


垂直避難



いわき市防災マップ(内郷地区)学習面抜粋

- 熊本県益城町赤井地区でがけ崩れが発生し、土砂災害警戒区域内の寺の本堂が押しつぶされ全壊。
- 区長含む地区役員4名が、3日6時頃に土砂を含んだ大量の水が流れていることに気づき、寺の周辺住民に避難を呼び掛け、人的被害がなかった。



【災害の経緯】 令和5年7月3日

- AM 0:31 大雨警報(土砂災害)発表
- AM 6:00頃 赤井地区区長、役員4名で見回り開始、避難を呼び掛け
- AM 7:00頃 役場、消防に電話、寺関係者は前住職を通じ連絡し、安否を確認
- AM 7:05 避難指示発令(洪水警戒)
- AM 7:10頃 斜面が崩壊し、町道及び寺の一部が崩土で埋塞
- AM 8:10頃 崩土で本堂倒壊、寺関係者は公民館へ避難し無事
- AM 9:40 土砂災害警戒情報発表

【地区役員コメント】

熊本地震後に配布されたハザードマップにより、寺の周辺がレッドゾーンであることを区長、地区役員が共有できていたことから、いち早く異変に気付き、避難を呼び掛けることができた。

②7月3日 町道の埋塞



③7月3日 本堂の倒壊



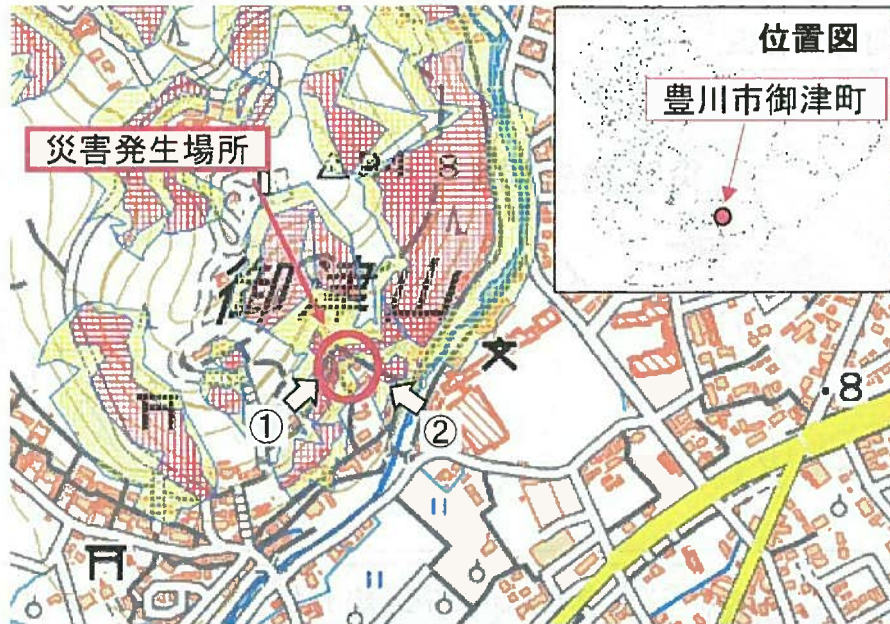
①7月4日撮影 空中撮影 提供：株式会社パスコ



土砂災害の発生のおそれに関する情報等を活用して早めの避難により被害を逃れた事例 (愛知県豊川市御津町)

様式3
(例)

- 令和5年6月2日からの大雨において、愛知県豊川市御津町では、住宅が巻き込まれる土砂災害が発生。
- 事前の避難により、住宅は全壊したが人的被害はなかった。

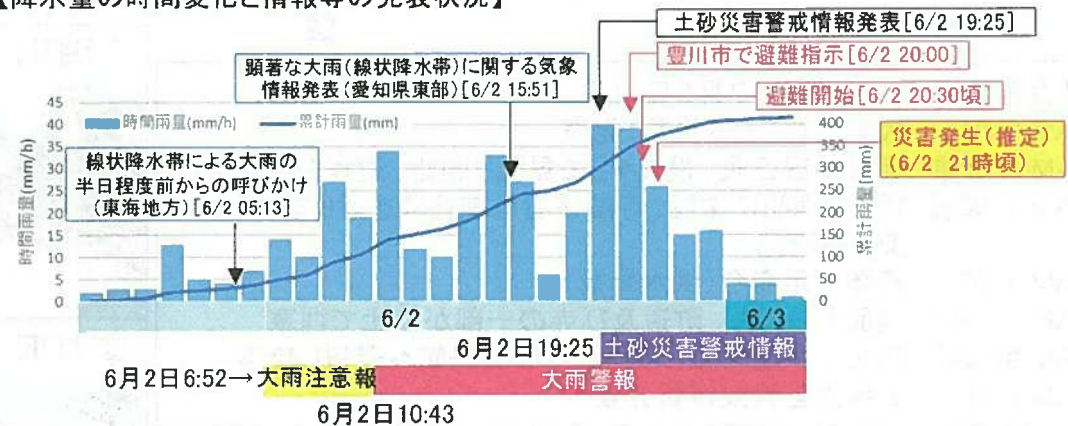


住民は事前に
避難して被害
を逃れた

②被災箇所全景



【降水量の時間変化と情報等の発表状況】



【行政の関わり】

- 豊川市においては、これまで例年6月に土砂災害防災訓練を実施しており、避難訓練や住民に対して土砂災害に関する講習会を行うなど、土砂災害による被害を防ぐための取組を行っている。

土砂災害の発生のおそれに関する情報等を活用して早めの避難により被害を逃れた事例 (山口県周南市福川地区)

様式3
(例)

- 令和5年6月30日からの大雨において、山口県周南市福川地区では、住宅や車両が巻き込まれるがけ崩れ災害が発生。
- 保全対象の住民は、大雨の情報を基にはやめに自主避難したことで人的被害はなかった。

【降水量の時間変化と情報等の発表状況】



【災害の経緯】令和 5年6月30日～

PM 5:52	大雨警報(土砂災害)発表
PM 6:00	自主避難開始
PM 11:10	土砂災害警戒情報発表
AM 0:15	避難指示発令
AM 1:00 頃	土砂災害発生(推定)

近年土砂災害が多く発生しており、土砂災害警戒区域等に指定されている住民の防災意識が高まっている。

また、平成30年災を教訓に、国・県・市間で情報共有を行い、早めの対応が生かされている。

①7月1日 住宅裏の埋塞



②7月1日 車両の被害



